

令和7年度第1回忠岡町まち・ひと・しごと創生総合戦略効果検証会議議事録要旨

日 時	令和8年3月24日（火）午後1時30分から午後3時00分まで
場 所	忠岡町シビックセンター本館3階 研修室1・2
出席者	（忠岡町まち・ひと・しごと創生総合戦略効果検証委員） 杉原会長、花野委員、大西委員、古川委員、内匠委員、安藤委員
欠席者	なし
事務局	是枝町長、立花町長公室長、岩佐経営戦略課長、仲岡経営戦略課主査、園部経営戦略課主査
傍聴者	4名
配布資料	1. 会議次第 2. 令和7年度第1回 忠岡町まち・ひと・しごと創生総合戦略効果検証 資料 3. 委員名簿
会議次第	1. 開 会 2. 町長挨拶 3. 会長挨拶 4. 委員及び事務局紹介 5. 会議の公開、非公開について 6. 令和6年度忠岡町まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証結果について 1. プロジェクトごとのKPI 結果について 2. 重点プロジェクトの現状について（効果検証） 7. 閉 会

議事の経過	
発言者	発言内容
町長	<p>1. 開会</p> <p>2. 町長挨拶 本日はお忙しい中ご出席いただき、また日頃から行政運営にご協力いただいていることにも感謝申し上げます。 現在、令和8年度から始まる第三期総合戦略の策定が大詰めを迎えており、人口減少が続く中でも、選ばれるまち・住み続けたいまちとして魅力を高めることが重要だと考えている。 今年度は大阪・関西万博が開催され、本町出身の赤井勝さんのパフォーマンスや町内商店の出展を通じて、忠岡の魅力を世界に発信できたが、この機運を一過性にせず、今後のにぎわいや定住促進につなげていく必要がある。 本日は各分野の専門家の皆様にお集まりいただいているので、今後のまちづくりに向けて忌憚のないご意見をいただきたい。</p>
杉原会長	<p>3. 会長挨拶 先日の推進会議では、令和8年度から始まる第三期戦略の策定についてご意見をいただいたが、新しい計画をより良いものにするためには、まず現在の取り組みをしっかりと振り返り、成果や課題を次につなげていくことが重要である。 本日は、専門的な知見と生活者としての視点の両面から、限られた時間ではあるが、活発なご議論をいただきたい。</p>
杉原会長	<p>4. 委員及び事務局紹介</p> <p>5. 会議の公開・非公開 忠岡町審議会等の会議の公開に関する指針においては、町長その他の執行機関に置かれる附属機関の会議は原則公開ということになっているが、公開としてよいか。</p>
委員	(異議なし)
杉原会長	異議がないため、本会議は公開とする。
事務局	<p>6. 令和5年度忠岡町まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証結果について</p> <p>①プロジェクトごとのKPI 結果について</p> <p>●資料を用いて説明</p>
花野副会長	ふるさと納税について、忠岡町は繊維の町であるが、返礼品について繊維関係以外でどのようなものを考えているか。

事務局	<p>漁協組合で牡蠣の養殖を進めていただいております、これが食品のメインになると考えています。また、ポータルサイトについても見直しを進めており、トップ画面に表示されるような有料枠の活用も含めて、寄附件数を増やしていきたい。</p> <p>忠岡町は小さな町で地場産品が少ないため、いかに情報をPRしていくかが重要であるが、寄附額も右肩下がりになっているため、てこ入れが必要だと考えている。</p> <p>令和8年度からは、ふるさと納税の担当を秘書人事課から産業振興課に移し、商工会との連携をより円滑に進められる体制とした。自主財源が乏しい町であるので、寄附額をしっかりと増やしていきたい。</p>
大西委員	<p>小規模ではあるがスイーツ関連の店舗も増えてきているため、その分野の事業者を発掘していく方法もあるのではないかと。</p>
事務局	<p>そのような店舗にも声をかけたことがあるが、大量生産ができないと返礼品としては難しい。例えば、忠岡町内に工場などを設けて大量生産できる体制を整えば、商品化の可能性はある。</p>
安藤委員	<p>地域未来交付金という補助金制度が設けられており、今日の議題にあるような案件にも活用できるのではないかと考えるが、どのような形で活用されるのか伺いたい。</p>
事務局	<p>地域未来交付金は昨年度から始まった制度で、東京一極集中を是正し地方を活性化するため、多様なメニューが用意されている。忠岡町ではここ2年連続、防災分野で活用しており、避難所環境の改善を進めてきた。</p> <p>具体的には、給水車の導入、避難所でのプライバシー確保用テント、ポータブルトイレなどを整備した。給水車はこれまで町に無かったため、有事の際の迅速な対応に役立つものである。</p> <p>令和8年度当初予算では地域未来交付金は見込んでいないが、今後は役場内部の業務改善や住民サービス向上のためのDX推進にも活用していきたいと考えている。</p>
杉原会長	<p>最近、「まち・ひと・しごと」という言葉をあまり聞かなくなった。次々と新しい交付金や制度が出てくるので、追いかけるのが大変だと感じている。</p> <p>地域未来交付金の活用実績は、総合戦略の取り組みに該当するのかな。</p>
事務局	<p>この交付金は、もともとの「地方創生推進交付金」から、「デジタル田園都市国家構想交付金」を経て、現在の「地域未来交付金」へと名称や内容が変わりながら拡大してきた制度である。</p> <p>交付金の要件に該当する事業があれば積極的に活用する方針であり、その中で、総合戦略の取り組みに該当するものもあろうかと思う。</p>
町長	<p>忠岡町では人口減少が続いており、町の活気にも影響が出るため、若い世代に住み続</p>

	<p>けてもらえる環境づくりが重要だと考えている。特に子育て支援を強化し、周辺市よりも忠岡は子育てしやすい町であるという点をアピールしていく必要がある。</p> <p>町内には民間こども園2園と町立こども園1園があり、待機児童はほぼゼロ。保育料は第2子以降無償、就学前の給食費も無償化している。人口1万5千人規模に対して保健師が6名程度おり、全ての新生児家庭を訪問するなど、子育て支援が行き届いている。</p> <p>予防接種もアプリで管理できるようになっており、保護者の負担軽減につながっている。こうした取り組みをさらに発信していきたいと考えている。</p> <p>忠岡町は大阪府内の町村の中でも事業所数が多く、臨海部や内陸部の事業所には多くの方が電車で通勤している。こうした忠岡で働いている人が、そのまま忠岡に住んでもらえるよう、特に駅周辺の環境整備など、住みたいと思えるまちづくりが必要だと感じている。</p> <p>新しい企業を誘致する土地はないため、既存の事業所で働く若い方々に向けて、忠岡の魅力を伝え、住んでもらえるようアプローチしていきたい。今後、この取り組みに協力いただければありがたい。</p>
古川委員	<p>弊社にも電車通勤の従業員が何人かおり、忠岡に住めば便利だと思うことはある。今後、そうした方々にアプローチできればと考えている。</p> <p>また、計画全体を通してKPIを掲げているのは良いが、設定されている目標値が適切かどうかは一度見直してもよいのではないかと思う。あまり高すぎると、職員の達成感ややりがいにつながりにくい可能性がある。</p> <p>特に人口に関するKPIは、どの自治体でも減少傾向が続いている状況を踏まえると、増やすよりも、減少に歯止めをかける方向にシフトした方が現実的ではないかと感じている。</p>
杉原会長	<p>どこの自治体も、出生数を増やすこと、社会増で人に入ってきてもらうことを目標にしているが、基礎自治体レベルで人口減少に対してできることには限界があり、特に出生数を増やすことは非常に難しい。人口減少そのものよりも減るスピードが速すぎるのが問題であり、減少速度を遅らせながら戦略的に縮んでいく姿をどう描くかが問われる段階にきている。</p> <p>社人研の人口予測は外れることが多く、それを基に各自治体で予測を立てると希望的観測に見える数字になりがちである。</p>
内匠委員	<p>20代の若い人は、就職を機に町外へ出てしまうケースが多い。</p> <p>忠岡の近くで働ける職場が増えれば、実家から通う選択肢もできるため、若い世代が町に残る可能性が高まると感じている。最近は忠岡で出店する事業者も増えているようで、こうした動きが広がれば、20代の若い人たちが忠岡に残るきっかけになるのではないか。</p>
杉原会長	<p>人口維持の観点では若い女性が町に残ることが最も重要で、20～39歳の女性が9割以上の子どもを産んでいる現実を踏まえると、若い女性の減少が将来の出生数に直結す</p>

	<p>るため、若い女性が住みたいと思える施策展開が必要である。</p>
花野委員	<p>自身の経験から、地域コミュニティの魅力が、忠岡町の子育て環境としての強みになっていると実感している。</p>
町長	<p>東京都のような大規模な施策は難しいが、町としては若い世代の声を大切にし、行政に積極的に参画してもらうことが重要だと考えている</p>
事務局	<p>②重点プロジェクトの現状について（効果検証）</p> <p>●資料を用いて説明</p>
杉原会長	<p>評価が2点未満の事業を順番に確認していく。</p> <p>まず8ページ、育症治療助成について意見はあるか。</p> <p>利用しなかったのに制度を知らなかったという状況であれば問題があるが、利用がないこと自体は問題ではないと考える。</p>
事務局	<p>不育症治療助成は、市町村で実施している例が少なく、忠岡町では2～3年目の取り組みとして意義のある事業だと考えており、予算を確保している。</p> <p>以前は不妊治療の助成を行っていたが、保険適用が進んだため、現在は不育症支援に移行した。デリケートな問題でもあるため、周知方法を工夫し、個別相談など丁寧なアプローチが必要だと考えている。</p>
杉原会長	<p>少子化の議論ともつながるが、不育症治療助成のような望んでいるのに子どもを授けられない人を支える事業は非常に重要だと考えている。また、人工妊娠中絶など、授かった命が生まれないケースを減らすことも社会的に大きな意味を持つ。</p> <p>不育症治療助成のような事業は、周知の仕方や具体策の提示が難しいが、うまく打ち出せれば忠岡モデルとして評価される可能性もある。若い世代が忠岡はこういう取り組みをしていると感じられるような施策になれば、町の魅力向上にもつながるのではないか。</p> <p>次に、9ページの青色回転灯パトロール・子ども安全見守り隊について意見はあるか。</p>
花野副会長	<p>この事業は、当時、熊取町での女児行方不明が話題となっていたこともあり、地域の安全を守る重要な活動として続けてきた。しかし、当初多くいた参加者も高齢化により減少しており、現在は活動の継続が難しくなっている。参加者の確保やPRの強化など、前向きに検討してほしい。</p>
杉原会長	<p>日本の防犯活動は不審者を探すという「人」に注目する発想が中心だが、子どもにとって不審者を見分けることは難しく、誤解や偏見を生む恐れもある。むしろ、「場所」に注目する防犯の考え方、つまり、どの場所が危険なのかを把握し、子ども自身も危険を</p>

<p>安藤委員</p>	<p>避けられるようにする取り組みが重要だと考えている。</p> <p>子どもが一人になりやすい時間帯や地点を把握し、その時間だけ地域の方に散歩や立ち話をしてもらっただけでも、不審者の接近を防ぐ効果がある。見守り活動の担い手が高齢化し減少している現状を踏まえると、こうした無理のない地域協力が今後ますます必要になる。町の規模や地形を考えると、忠岡町はこうした防犯モデルを実践しやすい環境にある。</p> <p>子どもの見守り活動は重要だが、自治会の高齢化が進み、独居高齢者の徘徊など、地域が抱える課題も増えており、人的な負担だけで安全を守るのは難しい状況にある。</p> <p>そのため、四條畷市のように、自治会・学校・行政が連携し、ICTを活用した見守りシステムを導入するなど、新しい仕組みづくりが必要だと考えている。例えば、子どもが端末を持ち、登下校時にどこを通ったか、学校の門を通過したかを把握できる仕組みがあれば、地域全体で子どもの安全を守る体制が強化される。</p> <p>こうした取り組みを進めることで、この町では犯罪はできないと思わせることが重要である。防犯は特定の部署だけでなく、地域・学校・行政が協力して取り組むべきテーマであり、町としても前向きに検討し、充実させていくことが望ましいと考える。</p>
<p>杉原会長</p>	<p>最後に、11 ページの障がい者虐待防止推進事業について意見はあるか。</p>
<p>安藤委員</p>	<p>実施できていないのは、要配慮個人情報の取り扱いの難しさからくるものか。</p>
<p>事務局</p>	<p>この事業は、一般的な虐待防止を広く住民に訴えることを目的としたものである。周知啓発が十分に行われていなかったのは、コロナ禍で一時的に取り組みを停止したことが大きな要因である。忠岡駅前などで実施していた啓発活動も中断され、その後、担当者の異動や引き継ぎ不足も重なり、令和 6 年度になっても十分に再開できていなかった。周知啓発そのものは大きな予算を必要とする事業ではなく、工夫次第で継続できる取り組みであり、今後は積極的に再開していく方針である。</p>
<p>杉原会長</p>	<p>今日は、委員の皆さまから貴重なご意見を多数いただいたので、今後の検討に生かしていただきたい。</p> <p>7. 閉会</p>